

私が考える「小金井モデル」となる各種支援



清水がく (自民党・信賴)

①新しい生活様式の徹底を機に、店内での3密を防ぐため、店舗前の道路上にテーブル等を設置して飲食物を提供するといった道路占有許可の緩和を行い、道路空間の活用を行うことについて検討は。 部長 市民の活動等とも連携し、活用できるような努めていきたい。また、国や東京都から要請があった際は、道路占有の考え方を整理し、対応していきたい。

②「まちの元気は商店街から」を合言葉に努力されている商店、事業者等の支援について。イベントが軒並み中止となり、活用しきれない商店街チャレンジ戦略事業補助を何とか有効に使用することについての検討状況は。 部長 市議会の決議等を踏まえ、引き続き商店会支援、事業者支援についても追加の支援を検討したい。 ③家族介護者やヤングケアラーへの理解のための冊子製作の検討は。 部長 冊子の作成も含め、必要な支援内容について検討していきたい。

小規模介護事業所、障がい者施設への支援を



板倉真也 (日本共産党)

①(ア)消毒用アルコールを事業所に優先的に配備する手はずを。(イ)防護服を買い揃えるのに要した費用を事業所単位で補助すべき。(ウ)財政調整基金を取り崩しても、小金井市独自の給付事業を。(エ)各事業所・施設を対象とした影響把握、実態調査を行うべき。

②(ア)広報物の音訳、点訳にあてがわれている部屋は作業に適合しておらず、何らかの対策が必要である。(イ)関係団体と意見交換を行い、必要なソフト・機材を整備し、録音や編集作業に支障が出ないように、責任を持って対応すべきではないか。 部長 (ア)施設整備の改善については、図書館施設全体の老朽化対策などと併せて検討を進めていくことも必要なので、すぐに解決策を講じることが難しい。(イ)困ったことがあったら、その都度担当職員に相談いただければ、対応したい。

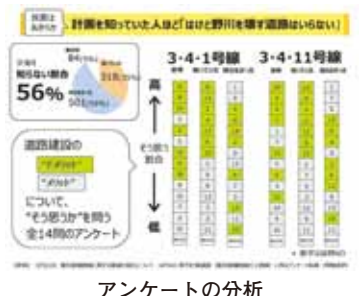
はげと野川を壊してまで道路はいらない



坂井えつ子 (緑・つながる)

(ア)市が行った優先整備2路線のアンケート結果を自ら分析したところ、計画が知られていないということ、計画を知っていた人ほど、野川やはげを壊してまで新しい道路は必要ないと考えているという結論に至った。市長はこの結果をどう受け止めているのか。(イ)要望書にある「丁寧な説明」とは、(ウ)東京都の依命通達を踏まえ、市長から事業の中止を求めてほしい。

市長 (ア)道路整備の効果を理解している市民も一定数いる一方、自然環境、景観に対する多くの懸念があり、計画を知らない市民が半数以上いることもよく分かった。更なる周知と丁寧な説明を求め、5月27日に東京都に要望書を出した。(イ)多様な考え方があることを踏まえるということが一番重要だと思う。(ウ)これまで申し上げてきたことを改めて申し上げていく。伝えるべきことは市長会などを通じて伝えていきたい。



コロナ禍での保育施設への対応など



湯沢綾子 (自民党・信賴)

①(ア)緊急事態宣言下、自治体間で保育施設への対応には大きな違いが生じた。第2波に備えて事例の研究を行うとともに、認可外施設利用者に対し認可施設と不公平が生じないよう保育料の補助等を行ってほしい。(イ)預かり保育は多くの園で利用できなくなった。保育の必要性のある保護者から要望があった場合、利用可能な保育サービスへのマッチングを行えないか。

②(ア)認可外保育施設における保育料の減額については、施設の実態調査等をした上で、制度を構築していきたい。(イ)代替サービスを提供する必要がある。 部長 (ア)認可外保育施設に寄り添い、近隣市との広域連携も視野に検討を。 部長 多摩府中保健所と小平児童相談所で預入先等を協議することになっているが、市としても対応できることは協力していく。

今こそ生命を守る予防接種事業の拡充を



渡辺ふき子 (公明党)

①(ア)外出自粛等により必要な予防接種が受けられなかった乳幼児や高齢者に対し、接種期間の延長や接種への個別勧奨を行うべき。(イ)様々な理由により、免疫を無くしてしまった方へのワクチン再接種について助成しないか。

部長 (ア)3月、4月は大きく減っており、5月の実績を注視していきたい。 課長 (イ)支援制度の創出を、との声も寄せられている。今後、再接種制度について前向きに取り組みたい。 ②子宮頸がん予防ワクチン接種については、小学校6年生から高校1年生までの女子を対象に定期接種化されている。国が積極的な接種勧奨を控えてから6年間の間に、接種率が1%未満となり、対象者であることを知らない子どももいる。定期接種の最終年度となる高校1年生に対し、権利失効通知を送ってはどうか。 課長 国の状況を注視しながら、ホームページ等を活用し、適切に広報したい。

奨学金の拡充と家賃・生活費の支援を求める



たけ久貴 (日本共産党)

①新型コロナウイルスの影響で若者や学生の生活も大変な状況になっている。学費が払えず、学生の5人に1人が退学を検討しているというアンケート調査もあるように、危機的状況である。一律学費半額を求め、インターネット署名運動も全国で起こっており、小金井市では、市内の大学に通う学生から市議会に陳情書も提出された。学生の生活と未来を守るため、奨学金について、支給金額も対象人数も増やし、拡充すべきではないか。

②(ア)コロナ禍で収入が減っている。住居確保給付金については、学生も対象のはずが、対象外と言われた人もおり、対応がばらばらである。認識を徹底するべき。(イ)住居確保給付金の対象の人へ、市の独自支援が必要ではないか。 部長 (ア)適切に案内をしたい。(イ)必要があれば、かかるべき時期に検討したい。 ③アルバイトや非正規労働者、フリーランスの人も仕事と収入がなくなり大変である。生活費の補償や支援が必要ではないか。 部長 まずは生活保護の案内と丁寧な対応をしたい。

浴恩館公園の野外調理場をなくさないで



田頭祐子 (生活者ネット)

浴恩館公園の野外調理場は公民館緑分館に利用申請をすれば、誰でも焚き火ができる場所。隣地が宅地開発され、煙などの苦情で迷惑施設扱いされない対策が必要である。(ア)近年利用が増えている。市民の声、活動の様子についての把握は。(イ)市民間の苦情や相談事を解決する役割についての公民館の考えは。(ウ)この場所での継続が困難であれば、敷地内で移設し、続けるという方向性は持っているか。

部長 (ア)利用団体の活動が活発になり喜ばしいが、匂いの苦情もあり、悩ましくもある。野外調理場は防災時の活用、多世代地域交流、子どもの火おこし体験等ができる貴重な場と聞いている。(イ)公民館として、近隣住民の理解を得る働きかけは行わなければならないと考える。(ウ)利用団体と意見交換して検討したい。 ③その他、文化財センターのハクビシン対策などについて確認しました。



かまどで餅つきの準備を手伝う子どもたち

コロナ対策、100兆円財政出動を求めるべき



斎藤康夫 (市民会議)

政府の新型コロナウイルス対策は、目に付いた部分の水漏れをモザイクで塞いでいるような対処療法ではない。新型コロナウイルスの感染による死者数よりも、自殺者数の方が多くなっていることはあつてはならない。今、注目すべきは、自民党議員連盟が主張している「真水100兆円規模の財政出動」である。その概要は次のようなものである。持続化給付金の大幅拡充50兆円による粗利補償、中小企業に永久劣後債による資本注入、医療・介護現場への支援5兆円、地方公共団体への臨時交付金5兆円、特別定額給付金の複数回追加給付26兆円、高等教育支援制度の拡充1兆円、公務員の積極的採用、全品目の軽減税率による消費税率0%を時限的に行う。このような経済対策を、地方自治体として政府に求めるべきである。

市長 議員から紹介のあった提言は報道で拝見している。私としては、第2次補正予算が可決、成立し、一刻も早く支援策が各地方自治体に及び、具体的な施策となつて展開されることを望ましいところであり、注視をしている。市長として、国や東京都に対し、要望を引き続き積極的に伝えていきたいと思つている。